

月刊 アカンス ews ニュース

第32号 1999(平成11年).2

「アカンス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)です。

金沢大・北陸先端大・金沢工大 北信越で初の大学院単位互換協定

トップニュース Top News



協定に調印後、固く握手を交す(左から)示村先端大・岡田金沢大・石川金沢工大の各学長
=1月25日、事務局特別会議室で

1月25日、金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学・金沢工業大学の三大学は単位互換協定を締結した。

協定の調印式は、角間キャンパスで行われ、^{しめむら}本学の岡田晃学長、先端大の示村悦二郎学長、金沢工大の石川憲一学長ら多数が出席した。

今回締結された単位互換協定は、大学院博士前期課程及び修士課程に在籍する学生を対象としており、各大学院生にとって、大学の枠を超えた教官との接触は新たな学修の興味を呼び起こすものと期待される。

「創立50周年」の 横断幕掛かる

本学は、今年の5月31日に創立50周年を迎えるが、1月29日、角間キャンパスの連絡橋「アカンス インターフェイス」の両側にPR用の横断幕が掛けられた。教職員、学生、地域住民が一体となって、この事業が成し遂げられるようにとの希望が込められている。



横断幕が掛けられた「アカンス インターフェイス」
=2月1日、調整池東側から





巻頭言

「留学生」に寄せて



留学生センター長
大橋 信喜美
(理学部教授)

昨年4月に留学生センター長を拝命して以来10か月余り、本学の国際化事業の一旦を担わせていただいています。多くの方々の協力を得ながら、ここまで来ました。

現在、本学への留学生は330余名を数えますが、それぞれに事情は異なるうとも、祖国の希望の星たらんと志を秘め、困難を乗り越えて実現した日本への留学であろうと想像します。それゆえに、春秋に富むであろうこれからの人生の大切なときに、異国の地で留学生を送る彼らにかかわっていくことの重さを感じずにはおれません。

留学生は、とりもなおさず、外国人であり、そのかわりは意識する・しないにかかわらず国際的関係です。本学の留学生の大半がアジア諸国からの留学生で、我が国の留学生受入れ政策がアジア重視であることをまさしく反映しています。昨年、韓国の金大中大統領が来日した際に行われた小淵首相とのトップ会談で、平成12年度から、我が国の工学系学部へ韓国からの留学生を受け入れることとなり、本学においても、関係者の了承を得て、その受入れを政府に申し出ているところです。留学生に関する諸々の状況は、まさに、

政治や国際関係に深くかかわっています。留学生とかかわっていくとき、彼らはそのときどきの世界の状況を背負っているのだろうということに思いをいたすことが肝要であろうかと考えます。

昨年6月末に留学生フェアでタイとマレーシアを、本年1月はじめに複数大学間交流の事前打合せのため中国を、それぞれ訪れる機会を得ました。アジアの国を訪れる初めての経験でした。経済的には、今は必ずしも先進国とはいえないこれらの国々ですが、受け継がれた伝統と文化の中には東洋の知恵の深さを感じさせてくれました。かの国からの留学生から、我々が教わることの多さを感じています。

短期留学プログラムが今年度からスタートするなど慌ただしい1年でした。これからも、本学に滞る留学生が充実した意義深い留学生を送られるよう心して努めるつもりですが、日本語教育のための専用の教室を持たないなど、さまざまな問題を留学生センターは抱えています。関係各位の御協力を切にお願い申し上げます。

受験生、正念場!

平成11年度“大学入試センター試験”に約52万人が挑戦

国公立大と一部の私立大の第一関門となる大学入試センター試験が、1月16・17日の両日、全国595会場で行われた。

県内では、今年から新たに金沢経済大学が参加し、本学を中心とした5大学を会場に試験が行われ、本学では「外国語」をはじめとする試験科目で約4,500人が問題に挑んだ。



問題が配られるのを緊張して待つ受験生
= 1月16日、文・法・経済学部A101教室(角間)





大地に根ざした歩みと大いなる飛躍を



1月4日、岡田晃学長は評議員や事務系幹部職員約110人を前に年頭のあいさつを行った。

この中で岡田学長は、「今年は、『^{つちのとう}己卯』の年。大地にしっかり根ざしたたくましい歩みと大いなる飛躍を期待する。大学の環境が厳しい中、個性ある大学づくりに求められるのは、大学人としての意識改革である。創立50周年を機に、次の50年、100年のためにもしっかりした基礎固めをお願いしたい。」と述べた。

中国紅蘇省から訪問団 複数大学間交流で前進

県との地域間の複数大学交流に向けて準備を進めている中国紅蘇省人民対外友好協会訪問団(団長・沈才元同会副会長)の一行が、1月25日、角間キャンパスを訪れた。これは、石川県内の大学合同の学生交流を目的として、1月上旬に石川地域留学生交流推進会議(団長・廣瀬幸雄本学学生部長)が同省を訪れ、協定締結に向けて着手したのを受けたもので、沈団長は、「紅蘇省と石川県・中でも金沢大を核とした複数大学との交流を進めたい。」と話した。



今後の交流進展を約束する沈訪問団長と岡田学長
=1月25日、学長室で



成人おめでとう!

1月14日，事務局特別会議室で平成10年度内に20歳を迎える職員を対象とした「平成11年成人祝賀式」が行われ，めでたく成人を迎えた4名に岡田晃学長から激励の言葉と記念品が贈られた。



新成人にお祝いと激励の言葉を贈る岡田学長
= 1月14日，事務局特別会議室で



今回成人を迎えた4名。左から鈴木悠希さん(医学部附属病院)，宮川卓也さん(医学部)，梅木友博さん(文・法・経済学部)，鈴木大嗣さん(工学部)
= 同上

田上第五 田上本町 土地区画整理事業

起工式で学長が祝辞

1月29日，第二の大学門前街となる田上第五及び田上本町土地区画整理事業建設起工式がJA金浦支所で挙行された。起工式には，岡田学長が来賓として出席し，「若者が住み，アメニティにあふれるすがすがしい街となることを期待します。」と祝辞を述べた。



祝辞を述べる岡田学長
= 1月29日，JA金浦支所で

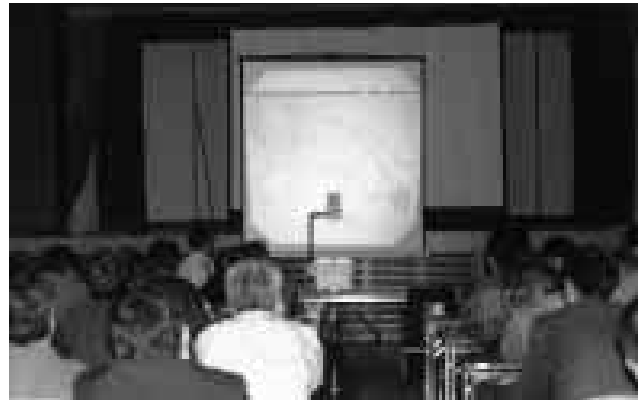


期
移
転

キャンパス計画に関する説明会を開く

施設部は、このたび工学部と薬学部において、総合移転第II期計画事業におけるキャンパス計画の説明会を開催した。

このうち、工学部では1月21日に秀峯会館を会場として行われ、澤本清史建築課長によるキャンパスゾーニング計画、建物配置計画、人の動線等の交通計画、施設のイメージ及び利用形態、移転事業の年次計画などの説明に約100人の教職員が耳を傾けた。また、いろいろな質問などが飛び出し、移転に関する関心の高さがうかがわれた。

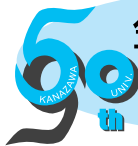


キャンパス計画の説明を聞く教職員
=1月21日、工学部秀峯会館で



紹介

Introduction



金沢大学50年の歩み

50年史編纂室収集資料から
(その7) 悲願の法文学部分離改組スタート 昭和55年
昭和50年代前半

昭和55年4月1日、本学創設以来の念願であった法文学部の分離改組が実現し、新しく文学部、法学部、経済学部の3学部が誕生した。

法文学部の分離改組は、新潟、金沢、岡山及び熊本の4大学が昭和27年から法文学部長会議などで検討を進め、昭和40年代に4大学の共同歩調で文部省へ要求してきたもので、昭和54年の熊本大学に引き続き3大学の分離改組が実現した。

発足したその日、午前9時から3学部の新しい名標(看板)が正面玄関に取り付けられ、関係者たちは新学部の発展に期待を膨らませた。

3学部の創設を記念して4月30日に開かれた祝賀会で、金子学長は『明治44年に始まる北陸帝国大学設立計画の時からずっと続いた夢が、いま実現の第1歩を踏み出した。当地からは沢山の自然科学者と共に、無数の文人、哲人、政治家、経済人を輩出している。文・法・経3学部がそれぞれの特質を發揮しつつ緊密に協力し、世界に向かって、金沢文化の華を咲かすべく、建設の槌を揮われんことを期待する。』と祝辞を述べ、出席者全員が新学部の発足を祝った。



祝賀会であいさつする金子学長
= 昭和55年4月30日、城内キャンパス学生会館で



新設の文学部、法学部、経済学部の名標(看板)を掲げる関係者
(北国新聞：55.4.1夕刊)

【参考文献】

- 金子曾政著「つづれ草」
- 「北国新聞(朝刊)」昭和54年12月28日付け掲載記事
- 「北国新聞(夕刊)」昭和55年4月1日付け掲載記事
- 「北陸中日新聞(夕刊)」昭和55年4月1日付け掲載記事
- 「北陸中日新聞(朝刊)」昭和55年4月1日付け掲載記事

弾丸娘 スキー大回転女子 大会史上初V4!

スキーの第44回中部日本学生選手権大会が、1月6日、岩岳スキー場(長野県白馬村)で行われ、大回転女子1部で本学教育学部4年の近藤こずえさんが大会史上初の4連覇の快挙を達成した。

1年生から“優勝”してきたこの大会。思い入れも強く「4連覇がかかっていたので、勝つことだけをとにかく考えて滑った。」と言うとおり、見事な滑りを見せた。

北海道出身の近藤さんは幼稚園からスキーを始め、その後も地域の少年団でスキーの腕を磨いてきたとのこと。「スピード系の競技が好き」という言葉とは裏腹に、優しい笑顔がすがすがしい素敵な学生だ。



さっそうとした滑りを見せる近藤こずえさん

寒中水泳に挑戦!! 水泳部員ブルブル

学生サークルの水泳部(部員40人)は、1月23日、寒中水泳に挑戦した。

部員が集めた13時の外気温は11.0 と寒中の割には暖かい条件であった。それでも水温は7.0。手を入れると冷たいと感じる温度である。部員は、まず各学年の男女ごとにプールサイドに整列。一人ひとりがバケツ1杯の水をかぶってから今年の目標を大声で宣誓し、水に飛び込んだ。25メートル泳いでから水を出る者。ターンして50メートルを泳ぐ者。一旦外に出た後、泳ぎが不本意だとしてもう一度水に飛び込む者などいろいろ。泳ぎ終わった部員は、仲間から手渡された毛布に身を包み、震えながら熱い雑炊を味わった。



覚悟を決めて!
= 1月23日、屋内プール(角間)

毛布にくるまってほっとひといき
= 同上





岡田学長 大学基準協会の副会長に選出される

1月27日、大学基準協会は阿部謹也・前副会長(前一橋大学長)の後任として、本学の岡田学長を選出した。任期は時期の役員改選時まで。

大学基準協会には国立96大学、公立35大学、私立350大学が加盟しており、我が国で国公立を通じる唯一の団体として、広く大学教育の質的向上に貢献している。

3月に金沢で「放射線施設協議会・北陸東海支部研修会」開催

全国の放射線施設を持つ大学で組織される「大学等放射線施設協議会」の「第2回北陸東海支部研修会」が、右プログラムのとおり開催される。

今回の幹事校は金沢大学で、アイソトープ総合センターの森厚文教授を中心に現在準備中である。文部省からは、学術国際局学術情報課の馬淵憲治専門員が出席する予定である。

放射線安全管理の最新情報を幅広く入手できる企画となっており、その成果が大いに期待される。(参加申込み及び詳細については、アイソトープ総合センター〔宝町内線2471〕まで)

大学等放射線施設協議会 第2回北陸東海支部研修会

日時：平成11年3月16日(火)、13:00-17:20

会場：KKRホテル金沢(金沢市大手町2-32)

プログラム

- 13:00-13:05 開会の辞
森 厚文(金沢大学アイソトープ総合センター長)
- 13:05-14:00 あいさつ - 大学における放射線安全管理等の在り方について -
馬淵憲治(文部省学術国際局学術情報課専門員)
- 14:00-14:35 講演(1)ICRP1990年勧告の法令への取入れに関する最近の動向
講師：栗原紀夫(大学等放射線施設協議会会長、京都大学名誉教授)
座長：加納永一(福井医科大学)
コメンテーター：前越 久(名古屋大学医学部)
- 14:35-15:40 講演(2)放射線発がん機構研究の最近の動向
- ICRPの線量限度に科学的根拠があるのか -
講師：丹羽太真(京都大学放射線生物研究センター教授)
座長：近藤 隆(富山医科薬科大学)
コメンテーター：二階堂 修(金沢大学薬学部)
- 15:40-15:50 休憩
- 15:50-17:15 最近のトピックス等に関するパネル討論会
座長：西澤邦秀(名古屋大学アイトープ総合センター)
右藤文彦(浜松医科大学)
1) 科学技術庁の立入検査における指摘と改善策
遠藤正志(東京大学アイソトープ総合センター)
コメンテーター：伊藤則行(浜松医科大学)
2) RI施設で問題となる環境汚染物質の安全管理の現状と改善策
道上義正(金沢大学環境保全センター)
コメンテーター：中西 孝(金沢大学理学部)
- 17:15-17:20 開会の辞
坂本 浩(金沢大学アイソトープ理工系実験施設長)
- 17:20-17:25 休憩
- 17:25-18:40 参加者交流会

編集後記

暦の上では春となった。氷が融けるように肩がリラックスする気分と、年度末までにやっつけたい仕事で身が引き締まる思いとが同居する。

さて、表紙にもあるように、「創立50周年」の横断幕が本学のシンボルとも言える角間キャンパスの連絡橋「アカンサス インターフェイス」に掲げられた。いよいよ本番が近いと感じる。記念式典、記念展示、シンポジウム、特別講演などが、五月晴れの下でさわやかに、市民を交えてにぎやかに、そして有意義に、印象に残るように開催できればいいと思う。

本紙でも紹介欄に「金沢大学50年の歩み」の特集を

続けているが、これまでも大きな出来事が各年代の節目を形成してきた。金沢大学は今後もいろいろな転機を踏みながら歴史を重ねるのであろう。近い将来、国立大学の独立行政法人化の問題が再浮上するのも間違いないことである。大学が国立である意味、そのような問題が出てきた背景、本学の大学改革の在り方などをもう一度考えてみる必要がありそうだ。そして、生き生きした金沢大学、パンチの効いたその存在意義を国民にアピールしていかなければならないことも、また間違いないことのように思う。(池端)



雪・景・色



角間キャンパスに通じる道(1月19日撮影)

寒中水泳
水泳部



(関連記事は6ページ)



THE DORAKU ⑧

ゲートボール



昨年12月に行われた“沖縄大会”での記念撮影。ゼッケン6が西村さん

早いもので、大学を退職して13年、73歳になりました。町会の方からのお誘いでゲートボールを始めて11年。今では、何とか大会に出場できるようになりました。

練習は、雪のない季節の日の出から約2時間。近くの公園で毎日行います。夏なら4時に起床です。所属する「額^{ぬか}ホワイトチーム」は、和をモットーとしたチームで、昨年12月に沖縄で開催された「サントピア沖縄全国ゲートボール大会」で120チーム中ベスト8に残りました。このほかにも、10の愛好クラブに所属しており、月に半分ほどは弁当持参で朝から晩まで練習試合をしています。

ゲートボールは、5人のチームワークと技術と作戦で勝負します。ちょっとしたことで大逆転となるのが面白いのです。この趣味で、ひまつぶし・健康・人とのふれあいを手にしました。皆さんにも長続きできるスポーツをお勧めします。

西村竹治郎(健寿会, 元医学部)

このコーナーは、皆さんの趣味や熱中していることなどを紹介するコーナーです。いろいろな作品や季節感あふれる話題などをお寄せください。いつでも撮影に向きます。

平成11年2月19日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称“KUPIS”(キューピーズ)」

(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。

本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。